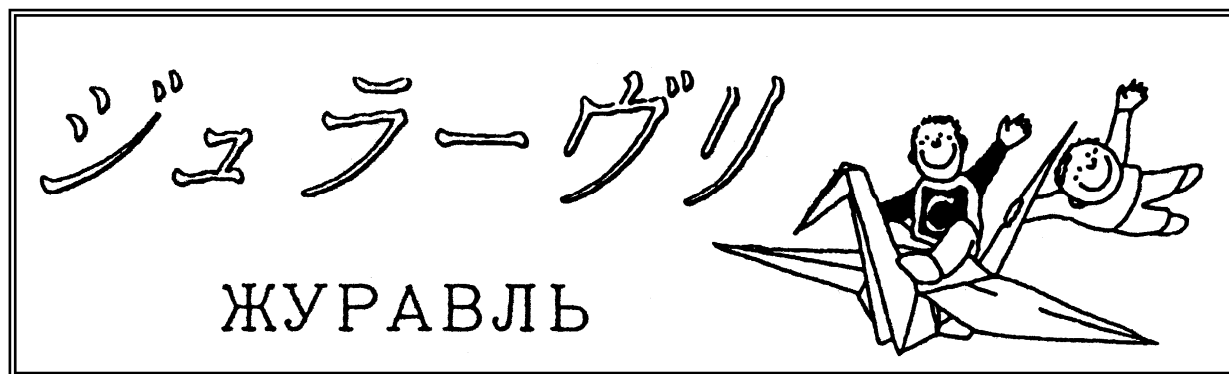
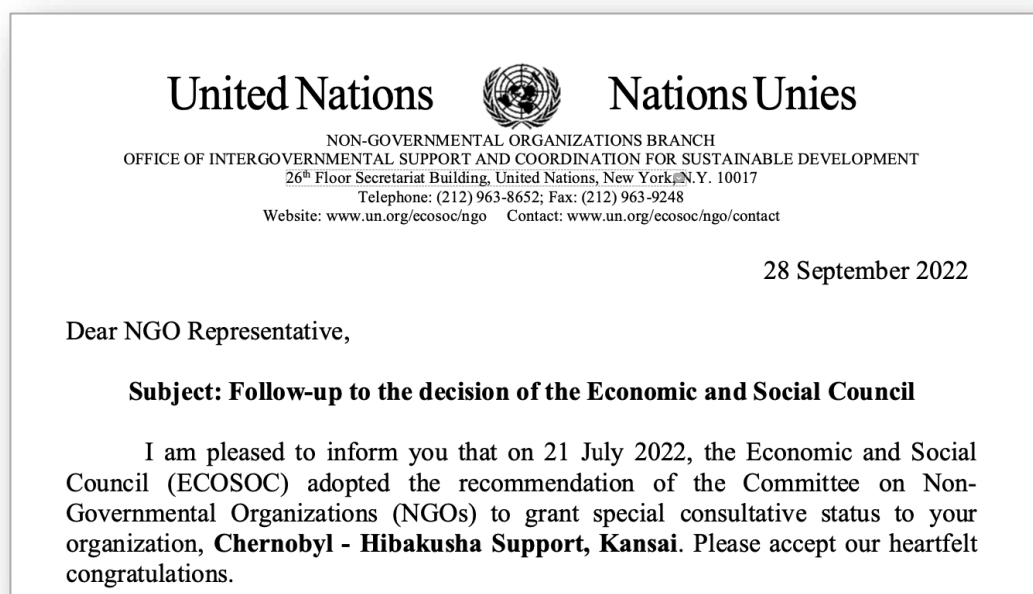




「救援関西」は国連協議資格を取得しました！
今後もチェルノブイリとフクシマの原発事故被害者
そして世界の核被害者の人権確立をめざし
国際的にも発信し 行動し続けます！

「救援関西」は、国連 NGO 委員会の審査を経て、2022 年 7 月 21 日に、国連の経済社会理事会 (ECOSOC) との特殊協議資格を取得しました。9 月 28 日付けで、国連 NGO 部門から正式に ECOSOC での決定を知らせるレター（下記）を受け取りました。



協議資格を持つ NGO は、国連総会や国連人権理事会など、国連関連の「1.国際会議及び行事への参加 2.国際行事で書面及び口頭で意見を発表する 3.サイドイベントの主催 4.国連内への出入許可証の取得 5.ネットワーク形成及びロビー活動の機会を持つ」などの特典が与えられます。一方、NGO は4年ごとに「その活動、特に国連の活動に対する支援活動に関し、ECOSOC の NGO 委員会に報告書を提出する。」ことが義務付けられています。（国連発行「NGO のための ECOSOC 協議資格に関するガイドブック」参照）

「救援関西」は国連協議資格取得の申請を 2019 年に初めて行いましたが、この時は手続き上の困難に阻まれて書類が受理されず、その年の審査には間に合いませんでした。（資格申請には、NGO が設立から2年以上経っていることを証明する公的機関発行の「存在証明」書類の提出が必要だが、「救援関西」は国内では任意団体であり、NPO 登録などしていないので、そのような書類を準備するのが難しかった。）そこで、ベラルーシで交流・支援を続けてきたチェルノブイリ被災地のクラスノポリエ地区の行政委員会（教育・スポーツ・観光部門）に依頼して、「救援関西」がこの地区と長年にわたる協力関係があるという「存在証明」の公的書類を発行してもらい、2020 年に再申請しました。今回は、なんとか申請書類は受理されたのですが、コロナ・パンデミックのために ECOSOC の NGO 委員会開催と審査が遅れ、やっと今年 2022 年になって資格取得できました。

申請にあたっては、これまでの国内外での「救援関西」の活動、及び WHO など国連関連機関が開催したチェルノブイリ事故関連の国際会議への参加や会議での報告、また 2001 年に「平和と自由のための女性国際連盟（WILPF）」を通じて、チェルノブイリ事故 15 周年に際しての意見書を国連人権委員会（当時）に提出したことなど、これまでの私たちの活動を申請書に書き込みました。

国連協議資格の取得は、「救援関西」を支えてくださった多くの皆さんとともに取り組んできた、30 年以上にわたる国内外での活動、そしてチェルノブイリ・ヒバクシャとともに育んできた友情と信頼関係の上に得られたものだと思います。今後も、チェルノブイリとフクシマの原発事故被害者、世界の核被害者とともに、ヒバクシャ＝核被害者の人権確立、これ以上の核被害を繰り返さないために、この国連協議資格をフルに活用し、国際的にも発信し、行動していきたいと思っています。

日本の人権状況に対する第 4 回普遍的・定期的レビュー（UPR）に際し 「東電福島第一原発事故後の日本政府の政策による人権侵害」について 報告書を共同提出しました

2023 年 1 月に、国連人権理事会において、日本の人権状況に対する普遍的・定期的レビュー（UPR）が行われます。UPR は、人権理事会の創設（2006 年）に伴い、全国連加盟国の人権状況を普遍的に審査する制度として 2008 年から開始されました。国連人権理事会の作業部会で審査が行われ、全国連加盟国が議論に参加し、人権理事会理事国 3 か国（くじ引きで決定し「トロイカ」と呼称される）がチームとして被審査国の報告者国となって結果文書を作成し、その文書が人権理事会本会で採択されます。被審査国及び全国連加盟国は、結果文書の採択前に見解を表明する機会が与えられ、NGO 関係者もコメントを述べる機会が与えられます。（外務省 HP を参照）

今回、日本の UPR に向けて私たちは、「東電福島第一原発事故後の日本政府の政策による人権侵害」に関する報告書を「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」「原発の危険性を考える宝塚の

会」「若狭連帯行動ネットワーク」の三者共同で、2022年7月に国連人権理事会に提出しました。
(報告書の日本語版を近日中に「救援関西」のHPにアップします。)

福島原発事故被災地での人権侵害は多岐にわたり、未だ課題が山積していますが、字数が限られていることから、今回は特に緊急を要すると考えた二つの課題、「トリチウム汚染水(ALPS 処理水)の海洋放出方針」と「医療・介護保険料及び医療費の減免措置見直し(削減・廃止)の方針」に絞って報告しました。そして、1.日本政府は、東電福島第一原発から「ALPS 処理水」(トリチウム等、放射性物質を含む汚染水)を海洋放出する方針を撤回し、「処理水」を原発敷地内で厳重に陸上保管すること。2.日本政府は、「原子力災害被災地域における医療・介護保険料及び医療費の減免措置」の見直し(削減・廃止)の方針を撤回し、全ての原発事故被害者が生涯にわたって無料の医療を受けられるよう法的に保障すること。この二点を私たちからの勧告として述べました。

(「救援関西」事務局：振津)

8月6日 広島原爆の日にかけて ～ジャンナさんからのメッセージ



広島と長崎、永遠の痛みを抱えた都市、罪のない多くの人々が原爆によって殺されたという永遠の記憶を刻んだ場所。そして、私たち、この地球に今、暮らしている人々に、このような恐ろしいことを繰り返してはならないことを、ずっと思い出させてくれる街。

私たちは、人々が安全で平穏に暮らせるように、どのような戦争にも反対するためにあらゆる努力をします。

広島、長崎のヒバクシャの方々にご挨拶を送ります。私はしばしば皆さんのことを思い出します。

私たちチェルノブイリ事故被害者と日本の原爆被爆者、そしてすでに二世、三世の皆さんもいますが、ともに同じ痛みを共有しています。そして私たちの子や孫の健康、次世代以降の被害者への放射線被ばくの影響を、同じようにとても心配しています。

ベラルーシと日本のヒバクシャの間には、距離はありません。どんな障害物も私たちの友情と協力を妨げることはできません。

ベラルーシから深い愛情を込めて

ミンスク、マリノフカ

「移住者の会」代表 ジャンナ・フィロメンコ

「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」結成総会 開催 ～医療費等・減免措置見直し反対、国の責任による「健康手帳」交付、完全賠償を求めて～

被害者の反対を押し切って避難指示地域の「医療費等、減免措置」見直しを強行しようとする政府

政府は、2022年4月8日、福島県の原子力災害被災地域における「医療・介護保険料及び医療費の減免措置」（「医療費等、減免措置」）の見直しを方針決定しました。避難指示解除から10年程度で減免措置を終了し、解除時期別に4グループに分け、段階的に支援を削減し廃止するというのです。政府は当該地域の首長の意見聴取をただけで、被害者住民の一人ひとりの声を一切聞くこともなく、また、事前に県議会や市町村議会での議論もしないまま、この方針を決定しました。民主主義の原則にも反する許しがたいやり方です。

福島原発事故から10余年を経過してもなお「緊急事態宣言」下にあり、事故被害による課題は山積して多岐にわたります。政府は、「他の被災地域との公平性」を理由に「医療費等、減免措置」を見直し、廃止するとしています。しかし、長期にわたる放射能汚染と被ばく被害をもたらす原発重大事故は、自然災害とは異なります。原発事故で強い放射線被ばくによる健康へのリスクは生涯続きます。また、未だ生活再建途上にある被害者にとって、「医療費等、減免措置」はまさに「命綱」です。

国策で進めた原発で重大事故を起こし、放射能汚染で故郷を奪い、生業を奪い、避難生活を強いたのです。そして避難指示地域をはるかに超えた地域の多くの人々を被ばくさせた、その責任は国と東電にあります。「医療費等、減免措置」は、原発事故被害者に対して国が行うべき最低限の「補償」でもあり、被害者の当然の権利です。

浪江町議会で「医療、介護費用の負担を軽減してきた支援策の縮小、廃止の検討を中止し、減免措置の継続を要求する」との意見書（2022年3月）が出されるなど、該当する地域の住民、自治体の議会や首長等からも、減免措置の継続を求め、見直しに反対する声が上がっていたにもかかわらず、政府は強引に進めようとしています。

減免措置見直し反対を求め、福島原発事故被害者とともに取り組んだ、4月19日「8団体政府交渉」

私たち「救援関西」は、4月19日に、福島を始め全国の8団体（脱原発福島県民会議、双葉地方原発反対同盟、原子力資料情報室、原水禁国民会議、原発はごめんだヒロシマ市民の会、全国被爆二世団体連絡協議会、ヒバク反対キャンペーン、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西）で政府交渉を呼びかけ、政府方針撤回を求めて交渉を持ちました。（ジュラーヴリ127号、23頁～参照）



交渉では、福島原発事故被害者は「国策の原子力政策による被害者」であり、「最後の最後まで、国が前面に立ち責任持って対応」するとの原子力災害対策本部方針（2011.5.7）を、復興庁・厚労省として再確認させ

ました。しかし交渉の中で両省庁は、「普通の災害では1年くらいで打ち切るところを、原子力災害なので特別長期に12年間やってきた」「医療費の減免は、避難に伴う生活苦に対するもので、放射線の影響による健康被害はこの制度の目的からズレる」などと発言し、「最後の最後まで、国が前面に立ち責任持って対応」との原子力災害対策本部方針とは、全く反する回答に終始しました。



被ばくによる健康被害は「10年程度で終わる」ものでは決してなく、生涯続く健康リスクであることは、広島・長崎の原爆被爆者の経験とデータからも明らかです。しかも福島県の避難解除地域では、多くの場合、帰還後も「一般公衆の被ばく限度1mSv/年」を超える被ばくの中での生活を余儀なくされています。また、既に事故直後には福島と周辺県の数百万人もの人々が「1mSv/年を超える」被ばくを強いられました。そして、今後、何十年かかるかも分からない廃炉作業や汚染地での仕事で、多くの労働者が被曝労働に従事しなければなりません。交渉で、「政府は、広島・長崎にも学んで、原発事故被害者の生涯にわたる健康管理と医療を保障すべき」と、私たちは政府に迫りました。

「減免措置」見直し反対、「健康手帳」交付等(生涯にわたる健康保障)を求める住民組織の準備会

しかし、福島の避難指示地域のうち、政府方針で来年度から医療・介護保険料の半額負担へと見直される対象市町村（広野、南相馬の一部、川内の一部、田村）では、来年度の概算要求が出る前から既に決定されたかのように住民への周知が始まりました。（来年度の対象者数が限定的な楢葉町では、住民負担を町が補填する方針とのこと。）そして6月に出された福島県の政府への要請書からは、前年まであった避難指示区域等への「医療費等、減免措置」の継続要求が消えました。

このような政府の強引な原発事故被害者支援の切り捨てをなんとか止めなければと、双葉郡の人々を中心に、地域住民と労働組合・市民団体等が協力して、事故前からあった「双葉郡の医療をよくする住民会議」の活動を再開し、早急に反対運動を組織していこうということになりました。この「住民会議」は、大震災・原発事故前から医療過疎であった双葉郡で、医療機関の統廃合を進める国の政策によって、唯一の基幹病院であった県立大野病院が廃止されるという動きに反対して署名活動等に取り組んだ住民組織です。7月16日に同会の「再開準備会」が福島県「双葉町産業交流センター」で開催されました。現在直面している避難指示地域等の「医療費等、減免措置見直し」の対象地域は双葉郡に限られません。また、この課題は、原発事故による放射能汚染と被ばくによる健康と生活への被害に対する補償・保障を国に求める取り組みでもあり、放射能汚染が福島県全体と周辺県も含む広範囲に広がった事実から、それらの地域の住民も含めて、国の責任で「健康手帳」を交付するなど生涯にわたる健康保障を求めていくことが必要です。「再開準備会」では、このようなことを踏まえた課題提起と議論がなされました。そして会の活動再開に際して名称を変更し、改めて総会を持って再スタートすることになりました。

10月1日、「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」設立総会の開催

以上のような経緯で、10月1日、「双葉町産業交流センター」で、「双葉郡の医療をよくする住民会議」を発展的に解消した新たな会のスタートとして、「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」設立総会が開催されました。総会には、団体（双葉地方平和フォーラム、県教組双葉支部、きらり健康生協、フクシマ原発労働者相談センター、あけぼの会[退職女性教職員の会]双葉支部、日本音楽協議会、JP[日本郵政グループ]労組相双支部など）及び、自治体議員、個人、約30名が参加しました。



選出された「健康と暮らしを守る会」役員

新しく会長に就任した紺野則夫さん（元浪江町職員・事故当時健康保険課長、現在は浪江町議会議員2期目）は、冒頭の挨拶で、原発事故による被害を受けた福島県では「医療費の無料化の継続、さらに恒久的な医療費の無料化のために法整備」は全県民の願いである、会の活動を広げ、これを国に求めていると力を込めて述べられました。続いて、式次第に沿って、紺野さんの報告「浪江町における『放射線健康管理手帳』交付の意義と課題について」、事務局から、会の目的及び具体的方針（案）、当面する諸行動及び規約（案）[「減免措置見直し反対、健康手帳の交付を求める」署名の取り組み、各自治体・県への要請、政府交渉、など]の提案、そして意見交換、役員選出がされました。

「救援関西」としても、福島の方々と連帯し、引き続き、福島原発事故被害者の「健康と暮らしを守る」ための活動を支援していきたいと思っております。総会で提起された「署名」にも取り組みますので、ご協力よろしくお願いします。（ジュラールグリー郵送の方は同封の署名用紙をご活用ください。

「救援関西」のホームページにも署名用紙をアップします。）

以下、総会での紺野則夫代表の報告を簡単にご紹介します。

会長の紺野則夫さんの報告～「浪江町における『放射線健康管理手帳』交付の意義と課題について」

紺野さんは、事故当時、浪江町役場職員で健康保険課長でした。広島・長崎の「被爆者健康手帳」を参考にして、浪江町として「放射線健康管理手帳」を発行し、全町民に交付した思いについて、「私たちは原発事故で放射線に被ばくした。今後の健康被害に対処するために、自分や家族の健康を記録し、健康被害があった時には、この手帳の記録が一つの証になる」と考え「健康手帳」を作成した経緯を話されました。また、浪江町ではいち早くホールボディーカウンターを町で導入し、町民が体内の放射線量と内部被曝線量を測定し、その結果も「健康手帳」に記入できるようにしました。さらには、町民の健康診断や内部被曝線量測定の結果などを、町で入力してデータ化し、町民が必要な時にデータを出してもらえようシステムを導入したとのこと。

また、事故後、故馬場有町長とともに平和記念式典に参加するために広島に行った際に、当時、広島被団協理事長であった被爆者の坪井直さんと面会し、強い感銘を受けたことも語ってくれました。坪井さんは紺野さんらに、被爆者は「市民のために、原爆被爆者のために、国の責任を問うん

だ」「病気に負けてなんかいられない」と言われたそうです。また、「放射線は、（線量の）高低ではなく、被ばくしたということが一番の問題。高低にかかわらず、いずれは健康を害する、それが放射線だ。」とも言われたとのこと。そして、浪江町で発行・交付した「健康手帳」を持って行き、「この手帳を基に国に法制化を求めて行きたい」等々、坪井さんに話したところ「よくぞ作ってくれた」と言われ、自分のやってきたことが間違っていなかったことを再確認し、非常に感銘を受けたと話されました。



会長挨拶をする紺野則夫会長

紺野さんは、「放射線は、原爆であろうが、原発事故であろうが変わりはない。広島だろうが、長崎だろうが、福島だろうが同じなんだ。そう考えると、当然ながら、福島県民全員が医療費の無料化を受けられるようにされるべきだ。」と話されました。馬場町長とともに広島を訪問し、坪井さんらと交流する中で、このことを確信されたことが伝わってきました。

また、「8団体で呼びかけている政府交渉にも加わって、9団体での政府交渉に参加し、国に対して思いの丈を伝えたい」「『原爆被爆者援護法』と同等の新たな法整備を国に求めていきたい。」「国は一方的に医療費減免の予算措置をここでやめてしまう、そんな勝手な真似はさせてはならない。原発事故の問題を、国は真摯に考えるべきだ。」と述べられました。そして「国に対して新たな気持ちで医療費無料化、健診の徹底など、求めていきたい」と、強い決意を語られました。

（報告：振津かつみ）

カンパ・会費の納入ありがとうございました

（2022.6.5~2022.10.12）

神崎加与子 稲田幸良 森本良子 中村愛恵 衛藤英二 山崎隆敏 村井さとみ 杉原啓二
徳井和美 田原良二 折口晴夫 寺本和美 藤田達 太田陽子 伊藤勝義 山崎清 稲田みどり
門林洋子 林みどり 伊藤雅夫 岩部始 岡田仁 衛藤英二 宗泉寺 担保立子 加藤純子
中沢浩二 安田美津子 玉城豊 田伏和子 富田洋香 木村英子 中井忠 大西洋司 藤岡正雄
辻本義信 原発の危険性を考える宝塚の会 長沢由美

（順不同・敬称略）

2022年 ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ 夏の家

ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ夏の家、コロナ禍により2年間開催することができず、zoomでの顔合わせがやっとの状態が続きましたが、2022年ようやく開催することができました！

開催までの半年間、話題の中心だったのはやはり「コロナ対応」。

世の中に溢れてるさまざまな情報・基準・ガイドライン、それらをどう考えどこまで順守するのか、またしないのかで、激論が交わされました。

結局最も重要な事は、情報ではなく意見、自分達はどう思うのか感じるのかを出し合い、ゴーワクとしての答えを出すことだったと思います。

運営の意見だけでなく、参加者さんの意見を聞く場も設け、「ゴーワクラしさ」と「コロナ対応」の間に妥協点を見つけて、なんとか開催までこぎつける事が出来ました。



3年ぶりに会った子どもたちの成長はめざましく、何人かの子は「今年はスタッフとして参加する！」と、キャンプが始まる何ヶ月も前のミーティングから参加して意見を出し、キャンプ前後の掃除や設営・撤収も手伝ってくれました。

コロナでスタッフが4人も来れなくなってしまいかなり危ない状況でしたが、最後まで無事過ごせたのは子たちがスタッフとして参加してくれたおかげです。



今年はコロナ対応でいろいろ縮小しての開催だったので、期間は6日間（実際自由に動けるのは中4日）の短い期間でしたが、NANTAN 交流の家では前と同じようにみんなで机を並べて、一緒にご飯を食べ、いろんな話をしました。

ゴーワク初の海水浴にも行き、泳いだり、浜を走り回ったり、スイカ割りをしたり、みんな大はしゃぎでした。

子どもたちの成長・活躍に驚いたり感動し





たり、みんな楽しそうにしている事が嬉しく、今年開催するのは大変でしたが、頑張って開催出来て本当に良かった。

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西さんにはカンパを頂き本当にありがとうございました、大切に使いたいと思います。今年、コロナ禍でギリギリの開催をした経験はきっと次につながります、次回キャンプもまた応援よろしくお願いします。

ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ 田中一央

山科さん近況



コロナ禍での面会制限が解除になり、10月3日、3か月ぶりにやっと山科さんの面会が叶いました。

散歩が大好きで、毎日一万歩歩いたという山科さん、いつもの近くの公園に向かう時に歌を口ずさんでいました。公園で花を眺めたりしましたが、でも、無情にも、あっという間にすぐに時間は経ち、慌ただしくUターンです。

面会の方もおられるし、また施設の方と一緒に散歩などの外出もされているそうですが、別れ際に「私は独りぼっち」と繰り返され、後ろ髪をひかれる思いでした。本当に、ゆっくりと思いつき青い空気が吸えるように早くなつてほしいものです。 (いのまた)



ダンスコアポシブルリサイタル ロミオとジュリエット

2022年6月25日

枚方市総合文化芸術センター大ホールで、ダンスコアポシブルのリサイタルがありました。

ソーシャルディスタンスをとってではありますが、このピカピカの大きなホールが埋まり、熱気があふれていました。

そして、三年ぶりに、チェルノブイリバザーもさせていただきました！久々のためか、皆さんが覗いてくださり、コロナ禍の中、ウクライナの戦争下、ではありますが、しばしホッくりさせていただきました！

ありがとうございました。

で、中身は、、ウフフ！楽しい舞台でした。少しお伝えしますね。

ダンスコンサートは、最初の心奪われるダンス「LA Girls」。

もう一度みたい！そして、小さい少年ダンサーがビックリとんぼ返り(こんな振付はじめて拝見)のくるみ割りの中国の踊り(笑)。ライモンダのパドゥドゥ、スワンレイクの黒鳥のパドゥドゥ❤️見ごたえありました。(32回転グランフェッテでは手拍子がはじまりました！)

福原さん、河野さん、財津さん、山口さんたちの実力は周知ですが、新しい実力者も沢山。

小さなバレリーナも次々出演。親猫子猫の創作バレエ「子猫」は、ほほえましくて、ちょっとわらってしました。

「ヤマトタケル」は、古代を題材のバレエです。ヤマトタケルは日本神話の英雄くらいしか知識がないのですが、各地のシラトリ伝説とも関係があるそうです。人々の暮らしや争い、愛や祈りを表現されました。古代の大地や風の神々？の捉え方が新鮮でした。

大地の踊り、風の神、しかの神の踊り、、、「いのちのみなもと」の表現は、ポシブルの本領でしょうか。

「ロミオとジュリエット」は、有名なバレエですが、はじめて観ました。完成度高く物語に入り込んでしまいました。

ロミオとジュリエットが、はじめて出会うシーン。プロコフィエフの有名なあの音楽の所、貴婦人たちの重々しく謎めいた動きに、ジュリエットの気持ち(垣間見える彼の姿を追ってしまう、後戻りできない道、物語の始まり)が重なり、胸に迫ってきました。帰り道も、あの音楽が、ずっと、耳に残りました。



追伸

今回のプログラムは、戦いの場面多く、核と戦争の時代にどう表現するか、小谷さんは非常に悩まれたそうです。

追伸その2

小谷さんのゴージャスなドレス姿！絶対みんなに見せたかった!!

ポシブルファンのややミーハーなファン由美の感想でした。



年会費・カンパ納入のお願い



いつもご支援・ご協力をありがとうございます。

この12月に「救援関西」発足31年を迎えます。その集いでは、福島・飯舘村からゲストをお迎えし、お話を伺う計画を進めています。

いつもながらのお願いで恐縮ですが、年会費納入、カンパのご協力をよろしくお願いいたします。

「救援関西」は皆さまのご支援・ご協力にのみに支えられています。この物価高で大変なご時世ですがどうぞよろしくお願いいたします。

なお、事務手続き上、すでにご協力いただいた方にも振込用紙を同封させていただいています。どうぞご容赦下さいませ。

♡♣♦♥♠♦♣♡♠♦♥♠♦♣♡♠♦♥♠♦♣お知らせ♦♣♥♠♦♥♠♦♣♡♠♦♥♠♦♣

* 「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」発足31年のつどい

・講演〈全村避難を生きる〉（仮）

菅野哲さん（飯館村民）

・歌と演奏 アカリトバリさん

日時：12月18日（日）午後1時30分～4時30分

場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室（大阪駅前第2ビル 5F）

=詳細は次号にて案内します=

* 戦争はいやや！ 核なんかいらへん！ FESTIVAL2022

子どもたちに核も戦争もない未来を（チラシ参照）

日時：10月30日（日）10時～

場所：長居公園 自由広場

問合せ：090-3929-0053（テラサワ）

～舞台・出店あり～



=ジュラーヴリ128号・目次=

- p.1・・・「救援関西」国連協議資格を取得
- p.3・・・広島・原爆の日に寄せてージャンナさんからのメッセージ
- p.4・・・「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」結成総会開催
- p.8・・・2022 ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ 夏の家
- p.10・・・ダンスコアポシブルリサイタル ロミオとジュリエット
- p.12・・・お知らせ

政府は、「エネルギー危機が顕在化している」「エネルギーの安定供給の確保が必要」として、今までの原発依存度を下げていく方針を転換し、原発の積極的活用を一方向的に進めようとしている。17基の原発再稼働、既設炉の運転期間の延長、新型炉の開発・建設の検討等々。福島では、いまだに廃炉の目途も立たず、3万人もが避難生活を余儀なくされ、トリチウム汚染水の海洋放出など問題は山積し、復興の道半ばであるにもかかわらず、まるでフクシマ事故など終わったかのように。原発推進などとてもない！フクシマを繰り返してはならない！（m）

ニュース発行：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先：〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方

Tel：072-253-4644

e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

郵便振替：00910-2-32752

口座名：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西